

第 21 回
ナショナルバイオリソースプロジェクト「ゼブラフィッシュ」
運営委員会議事録（案）

日時：2021年9月13日（月）10:00～12:30

場所：オンライン

出席：岡本仁(理化学研究所CBS)，吉原良浩(理化学研究所CBS)，川上浩一(国立遺伝学研究所)酒井則良(国立遺伝学研究所)，東島眞一(基礎生物学研究所)，石田誠一(崇城大学)，石谷太(大阪大学)，伊藤素行(千葉大学)，小島肇(国立医薬品食品衛生研究所)，瀬原淳子(京都大学)，鑪迫典久(愛媛大学)，田中利男(三重大学)，津田佐知子(埼玉大学)，成瀬清(基礎生物学研究所)，西谷直之(岩手医科大学)，日比正彦(名古屋大学)，平田普三(青山学院大学・委員長)，政井一郎(沖縄科学技術大学院大学)
オブザーバー参加：鈴木智広(NBRP事務局・国立遺伝学研究所)，伊東真知子(NBRP事務局・国立遺伝学研究所)，高祖歩美(NBRP広報室・国立遺伝学研究所)，辻山隆(文部科学省)，齋藤正明(文部科学省)，本間棕(文部科学省)，古田和輝(文部科学省)，柿沼久哉(理化学研究所CBS)，石岡亜季子(理化学研究所CBS)

議題

1. 事業報告
2. 次期 NBRP に向けて
3. 魚のヘルスマonitoring
4. 海外のリソース事業との連携状況
5. 民間企業や発生毒性試験でのゼブラフィッシュ活用
6. 小型魚類研究会コミュニティ・ミーティングでのアナウンス
7. その他

報告および審議

1. 事業報告（岡本、川上、東島）

各実施機関の代表者より下記の点について報告があった。資料は事前にメールで委員に配布された。

- (1) 事業規模の概略
- (2) 2020 年度の会計報告
- (3) 2021 年度現時点までの会計報告
- (4) 2010 年度の事業実績
- (5) 2021 年度現時点までの事業実績

(6) データベースの現状と更新状況

(7) その他

実施機関の会計・事業内容について承認された。

2. 次期 NBRP に向けて（平田、岡本）

(1) 実施機関の現状と第 4 期事後評価

まず今までの経緯が確認された。2 年前の運営委員会で、第 5 期に関して現状の実施体制を維持するということが承認されている。また、小型魚類研究会のコミュニティーミーティングでもユーザーから現状維持でサービスを継続してほしいと全会一致の承認を得ている。第 4 期の中間評価および事後評価ヒアリングについて説明された。

(2) 第 5 期申請

第 5 期について現状のサービスを継続するという方向で申請することが承認された。

(3) 運営委員長および運営委員の見直し

第 4 期終了に伴い運営委員会は一度解散することが確認され、次期について審議された。次期運営委員長は平田が再任された。委員は今後検討することとした。

3. 魚のヘルスマonitoring

理化学研究所より 2020 年度のヘルスマonitoring 結果の報告があった。

4. 海外のリソース事業との連携状況

従来通りの状況であることが確認された。

5. 民間企業や発生毒性試験でのゼブラフィッシュ活用

現時点でガイドラインにゼブラフィッシュを用いた試験法は規定されていないが、代替法の 1 つとしてゼブラフィッシュは注目されており、多くの企業が薬理試験や毒性試験への利用を検討し始めていると報告された。今後、まずは野生型系統の利用が拡大すると予想される。毒性試験等の実証があり遺伝的情報が揃っている野生型系統が使用可能になれば、将来の医薬品・化粧品・食品の開発にも汎用性が広がると考えられた。動物愛護の観点も含めて、論文や日本での実験指針があることが望ましいとの意見があった。継続的に情報収集し検討することとした。

6. 小型魚類研究会コミュニティー・ミーティングでのアナウンス

実施機関として岡本から事業紹介をすることとした。また、次期 NBRP でも現体制を継続する方針に変更はない旨を平田から報告し、ユーザーの承認を問うこととした。

7. その他

自動化・遠隔化等に資する設備整備に関する調査について情報共有された。

→9月17日の小型魚類研究会のコミュニティー・ミーティングで、事業内容および第4期事後評価ヒアリングに関する報告を行うとともに、次期 NBRP も現体制でサービスを継続する方針に変更はない旨を報告し、全会一致で承認された。